

竹会報

1997
No.8

会報



東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会

第八号
平成九年四月十三日発行
発行・篁会
東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校 同窓会
〒112 東京都文京区小石川四ノ二ノ一
東京都立竹早高等学校内
編集・篁会編集委員会
印刷・髷ニット・印刷所
〒112 東京都文京区千駄木三ノ三ノ二
電話・〇三(三八二)〇二二〇

編集委員
表紙デザイン・文中カット
浅谷悦子 高校 七回生
森本美智子 高校 三回生
高木萬里子 高校 三回生
向井正昭 高校 四回生
浅谷悦子 高校 七回生
富永尊子 高校 七回生
山廣俊雄 高校 七回生
関文隆 高校 十回生
角掛信博 高校 十回生
渡辺信博 高校 十二回生

新校舎落成披露

平成9年度 篁会総会 のご案内

下記により篁会総会を開催いたします。お誘い合わせのうえご出席下さい。

日時 平成9年6月8日(日)

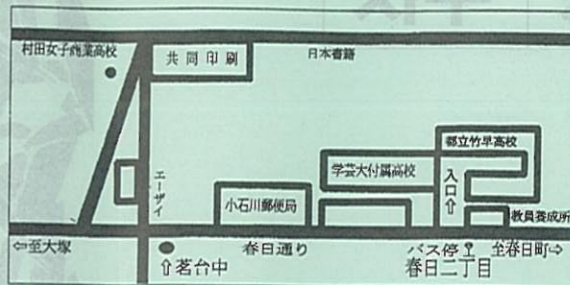
受付：11時30分～

開会：12時00分～

演奏：12時40分～

懇親会：13時30分～

閉会：15時30分～



会場 会場 都立竹早高等学校 1階大会議室 演奏会
地下1階食堂 (懇親会)

〒112 東京都文京区小石川4-2-1 TEL 3811-0701

会費 会費 ¥5,000 (学生 ¥2,000)

ご出席の場合のみ、同封の葉書にて5月20日までにお返事をお願いします。

今回幹事：高校7回生 (S30年卒)

高校28回生 (S51年卒)

高校48回生 (H8年卒)

次回幹事：高校8回生 (S31年卒)

高校29回生 (S52年卒)

高校49回生 (H9年卒)

東京都高等学校吹奏楽コンクール(公、私立)に出場し、平成7年度銅賞、8年度銀賞、9年度1月に金賞を受賞している。竹早祭での演奏の他、春休みには板橋の文化ホールにて定期演奏会を開催。部員は40名で朝練週3日を含め、練習熱心なクラブとして校内でも有名である。

会長をお引受けして

篁会会長 城戸崎 愛



会長をお引受けしてからはや一年半が経ちました。その間、新校舎落成記念式典、篁会総会も滞りなく終えられました事、これもひとえに会員の皆様の御協力、御支援の賜ものと理事一同厚く御礼申し上げます。特に新校舎落成に当っては歴代の校長先生はじめ諸先生方、PTAの皆様の御努力が実り、又都教育委員会、財務局、工事関係各位の御協力で立派な学び舎が完成、小石川という素晴らしい土地に校舎と共に百年の伝統が伝えられようとしております事、心からお喜び申し上げます。現在の篁会は、百才から十八才迄の方達が会員で皆様お元気に過してらっしゃいます。長い歴史のある篁会の方々の為に御指導御協力を賜りますようお願い申し上げます。

同じ学び舎で育った方達が信頼し合い仲良く楽しい篁会に発展してゆく事を強く願って止みません。健全な心身の持ち主であり度いものでございます。私も七十才を過ぎまして振り返って見て、多くの先輩、同輩、後輩の方達から色々の事をお教え頂いて来ましたが、最近九十二才で鬼籍に入られた私の

人生の恩師(元文京区立真砂町小学校校長)から頂いた数々のお便り(葉がき)の心に沁み入るものの一部お読み頂けたら……私の座右の銘にしております。

「篁会会長になられた由、沢山の、たけはや、を懐しむ人の為、心情を大切にしてください。」(九十才)

「見えて、聞えて、しゃべれて、書いて、かたじけな、センセイと呼んでもらって七十年、わるいことしないで生きて来にしよう。」(九十一才)

「人生の借地権、返納の日まで、力盡くさむ。一日記抄」明治生まれの方は御立派です。(九十二才)

いよいよ二十一世紀まで千日余り、竹早高校百周年も迎えようとしております。同窓会も準備期間に入ります。会員の皆様も何卒奮って御参加下さいませよう、重ねてお願い申し上げます。本年も篁会にとって有意義な年でありませう、努力致しますのでよろしくお見守り下さい。

教育改革の流れの中で

竹早高等学校長 筒井 利行



平成二年に着工して以来久しく待望していました新しい施設が平成七年度末にアリーナ、人工地盤の校庭、柔剣道室、芸術系教室などの竣工をもつ

ですべて完成いたしました。二十一世紀を担う生徒を育成する場にふさわしい学習環境が整ったことは誠に喜ばしいかぎりです。平成八年十一月二日には、本校に係る多くの方々のご出席を得て盛大に校舎落成記念の式典並びに祝賀会を開催することができました。このことに当たっては篁会の皆様方の物心両面にわたるご援助を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、明治三十三年に創立された本校は、間もなく百年を迎えます。百年は学校の歴史の中で大きな節目です。杉浦重剛先生の開かれた「称好塾」の学風の影響を受け、その精神である自主自立を校風として受け継ぎ、戦前戦後の困難な時期を乗り越え現在に至り、この間一万六千人を超す卒業生を世に送っております。このようなとき、竹早校生一人一人が百年の歴史の中に立っていることを深く認識し未来を見据えて歩んでいくことが大切と考えております。

今年には戦後六三三の新学制がスタートしてから五十年目に当たります。今二十一世紀を目前にして教育システムの全面的な見直しを求める動きが急となつています。中央教育審議会、教育過程審議会など、この春から秋にかけて相次いで答申や中間報告を出すということがあります。東京都においても都立高校長期懇談会が将来の在るべき都立高校の像について答申を出しました。このような動向を視野に入れ、これからの竹早高像を構想していくことが重要であると受けとめております。今後とも篁会の皆様のご鞭撻とご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

北の国・・・と言うと、あの感動のTVドラマから、なだらかに広がる丘陵地を連想される人も多いでしょう。そして乳牛の遊ぶ牧場、サラブレッドが走り回る緑の大地。大雪山系に象徴される山々を思い浮かべる人もいるかも知れません。流水で名高いオホーツク、地平線が見える十勝平野。それもこれもみんな北海道です。わが町妹背牛町は、それらの「北海道らしさ」とは少し違う景観とすべきでしょうか。札幌周辺を含む日本屈指の広大な石狩平野の北部に位置します。大きく蛇行して、流域面積日本一と教科書にあった、あの、石狩川です。三日月湖の影はもはや無く、水路も農道もきちんと整備された大きな田んぼが並びます。でも遙か北に増毛の山々を望み、南は五キロメートルも行けば音江山。そんなわけで、北海道独特の景観とはいえないのです。

当近藤家は今三代目。先々代は新潟県から、既に開拓に入っていた知人を頼って入植。スコップと鍬と馬で拓いた大地です。

「北育ち元氣村」こんなロゴご存知ありませんか。

妹背牛町をはじめ近隣一市六町が、消費地に送り出すおいしい農産物に付けたロゴです。野菜にも、花にも。そしてなんととっても主役は米、さらさら397。「元氣村こだわり米」さらさら397」なのです。

この先、どれだけ続けられるかわからない、心細い、情けない話になってしまいましたが、妹背牛の米は、「こだわり米」です。何にこだわるのかというと、栽培法(有機・減農薬・適期適作業)にこだわり、品質(色・艶・整粒歩合など)、食味(アミロース含有率二十パーセント以下、蛋白質含有率七・五パーセント以下)などにこだわっているのです。昨秋収穫の我家のさらさら397は食味計の数値で、妹背牛町でもトップクラスに入れたのはやはりとても嬉しいことでした。かのおきたこまちに追従する数値です。

昨今の厳しい農業情勢の中で、「元氣村」は、一市六町が力を合わせて苦しさ乗り越えるなどというものはなくて、明るい、喜びと希望をもって命の根源である食糧の生産に取り組もうという姿なのです。

「北育ち元氣村」をよろしく！
「こだわり米」さらさら397」をよろしく！

※こだわり米は、首都圏コープ・神奈川生協等で取り扱われています。

「妹背牛産さらさら397」と産地を指定してのお買求めもできるそうです。



「緒形拳先輩と新国劇」

今、若い人に人気のある俳優で緒形直人の父親が演劇の世界で卓越した個性を発揮している「緒形拳」である。

その人が、竹早高校の先輩であることを知ったのは、高校の国語科担当であった国広先生から、授業中に話を聞いた時からで、今から三十三年前のことになる。

毎年、秋の恒例行事となっている文化祭の時期になると、授業にはほとんど出ないで、講堂のステージで演劇の稽古をしている学生がいた。教室ではとても大人しく静かであるが、演劇をしている時は、魚が水を得たように生き生きとして大きく見えたと話されていた。その緒形拳先輩は、卒業後苦労しているの職業に就いたが、好きな演劇をやりたいと、当時、隆盛を極めていた劇団「新国劇」の辰巳柳太郎座長の門を叩き、弟子入りを志願したが、何回も門前払いにあった。

しかし、念願が叶ってやっと辰巳先生の弟子となるや、演劇の虫であった緒形拳先輩は、めきめきと力をつけて劇団の中でも頭角を表してきた。そして大きな転機となったのは、NHKの大河ドラマ「太閤記」の主役、秀吉役の抜擢であった。当時ドラマが放映されると話題にもなり、人気も急上昇し飛ぶ鳥を落とす勢いがあった。

国広先生の話を聞いた以後、新国劇に興味をもった私は、出来る限り公演を観劇していた。大正六年に沢田正二郎が「右に芸術、左に大衆、半歩前進主義」の精神で「新国劇」を旗揚げし

池内 和彦 (高校十六回)

てから五十周年の記念公演が、昭和四十二年に新宿コマ劇場で開催された。数多くある新国劇の演目のほとんどをダイジェストにして、最もいい場面を見せてくれた。勿論「国定忠治」「暎の母」「一本刀土俵入り」「月形半平太」「宮本武蔵」のマゲものから始まり、「王将」「ビルマの竖琴」の文芸ものまで演じられ、十分に満足したことがついでこの間のようなのである。

私が大阪にいる時に、既に新国劇を退団していた緒形拳先輩の「王将」が三越劇場で演じられたので、胸を湧く湧かせながら見に行った。坂田三吉は大阪が生んだ実在のプロの将棋士である。苦渋の生活から将棋士の頂点に達し、関根名人と対局する話は有名であるが、更にその後の坂田三吉の人間模様を表出していたのが、その時の公演であり、それを巧みに演じていた緒形拳先輩の迫力ある姿に接し、身震いをするほどであった。

新国劇の七十周年記念公演が、新橋演舞場で満員の客を集めて、昭和六十二年の八月行われた。代表演目である「国定忠治」を、今は亡き辰巳柳太郎が演じた。その時、悪役の山形屋の役を緒形拳先輩が演じた。劇中でも、筋書きが大きく展開する重要な場面で、高度な演技を問われるところであり、師弟ががっぷり四つに組んだ迫力ある舞台であった。反響も大きく大成功をさせた記念公演が終わると残念ながら劇団「新国劇」は解散して、幕を降ろすこととなった。

現・東京国際大学同窓会事務局長

その後は、新国劇の精神を継承していくと若手の元団員が劇団「若獅子」を結成して今では笠原章氏を代表として活躍している。この劇団も今年で十周年を迎えるところまで来た。平成六年三月、新橋演舞場で公演された「大菩薩峠」では、主役の机龍之助役を緒形拳先輩が演じ、脇を島田正吾をはじめ、元新国劇の重鎮である数多くの役者と若獅子の団員が見事に務め、公演は大成功を収めた。

新国劇と言えば、「殺陣師段平」の話にも出てくるが、真に迫るリアリズムな立ち回りを演じるので有名であり、人気がある。私が大学に入学してから祝嶺正献師範の創始した新しい武道である「躰道(たいどう)」との出会いがあった。以来三十年間、今でも修練を重ねているが、竹早高校にも一時、体育科の家村先生が躰道師範であった関係で、躰道部が存在していた。私も当時高校に向き、躰道演武会を試みて先生方や高校生に披露したり、躰道部の部員達に術技の指導をしたことがあった。体軸の変化をもって攻防を展開していく躰道の動きが、新国劇のリアリズムな立ち回りによく似ていることも、私にとってはとても嬉しいことであった。

私の青春時代を過ごした同じ竹早高校の同窓生のなかに、今や日本の演劇界のトップに君臨している偉大な俳優「緒形拳」先輩がいることに、私は誇りをもっている。

(平成九年二月・記)

助竹早会

ランドスケープ イン 清里

空と大地の鼓動に 心ときめかせて

(財) 竹早会 岩田 隆子 (高校11回)

先日、竹早高校の五階の地学の教室からまっ赤な夕日を見ました。それは、高層ビルとビルで切り取られた四角の空をバックに額に入った絵のようでした。小さい小さい空でした。

昨年落成された清潔で、明るい新校舎に何度か脚を運び、気がついたのは水はけが良い屋上の人工芝のグラウンド始め、歩くところは総て、コンクリートや新建材で被われていることです。「この学校では、サンブルの土を捨てるのにも苦労するですよ」と云う地学先生の言葉を理解しました。

そして、このような、人工物で作られた空間で毎日勉学に、スポーツに励んでいる若人に、地球は丸いのだと実感出来るような日の出や夕日が山の端に沈む三六〇度の展望、天球を伏せたような星空、生物を育む大地、風、光のゆるめきに身をまかせ、自由に息の出来る、空間と時間をプレゼントしてあげたいとの思いを新たにしております。

「ランドスケープ イン 清里」と銘ついてワークショップキャンプを行います。このランドスケープとは単に景色を眺めるだけではなく、自分を含んだ自然、今自分が身を置いている延長上に地球、宇宙の拡がりあっているいろいろなものと交信しているのだと自覚することのように考えます。人は環境に左右されます。東京の日常生活の中では見落としがちなことも、五感が鋭敏になっていると見えてきます。

清里高原は樹々や草花の気配や匂い、風の音、とりの声、土のぬくもり、雲の行方、光と影の色、星や月の輝き等を体感出来る場所なのです。青春期の多感な時にこそ、センス オブ ワンダーです。昨年は、竹早高校の地学の三輪先生、美術の中原先生、生物の折原先生等のご協力で、希望参加のワークショップキャンプを五月、六月、九月の三回実施いたしました。また夏休みに、天文部と山岳の合同の合宿や

数学の久住先生と英語の山田先生の熱意で勉強合宿が行われました。今後自然に恵まれた清里の八ヶ岳寮を舞台に、より多くの活動が開かれることを願っています。造形作家の佐藤省氏といっしょになかなか体験出来ない自然の中での造形活動も、作陶やスケッチをはじめ、版画、草木染め、野草紙作り等いろいろと準備しております。

賛助会員募集

竹早会の活動に賛同下さる方。八ヶ岳寮を愛する方ならどなたでも入会できます。年四回ニュース発行年会費一口3000円。郵便局振替口座 (財) 竹早会 〇〇一六〇一五一九七二二二 お問合せ先 (財) 竹早会事務局 ☎(三九四三)二四一五 文京区千石二一三四一〇一〇一

助 篁 会 館

理事長 吉澤 とよ

篁会館からの御挨拶もこの会報で最後となりますので今迄の経緯を書かせて頂きます。私は昭和二十六年旧制十二回湯河秋子様のお誘いで篁会の委員、二十九年に篁会館が設立されてからはお手伝いすることになり三十三年から会計係、最後迄つとめました。篁会と篁会館は昔から役員は兼ねている方が多かったので、バザー・音楽会・講演会等楽しいことも沢山ございました。然しその後どうしても忘れられないのは五十一年二月、突然湯河様(前々理事長)よりお電話で、その日予定がなかったらすぐ渋谷まで出てくるようにとのこと。数カ月ぶりにおめにかかりました湯河様はめっきりおやつれになり、思わず涙がでてしまいました。湯河様は、年寄達(役員)が相談して決めたことであるからおっしゃって、セーフティバックを私の名義にしたこと、その他色々の御注意がございました。その時お会いしたのが最後となりました。それから数日して頂いたお手紙は、最後にお会いした時の御注意と同じ内容でございました。①篁会館は明治生まれの役員が一生懸命協力して建てたものであるから後の理事長をたすけて運営してほしい。将来、どうしても経営出来ない時は信用できる人達と相談して一番よい方法を考えること。

新制高校は男性がいるのであるから、自分達で立派な会館を建てればよいので、決して無理はしないこと。②しかし当分は現状を維持できると思うが幹部にはそれまでに問題をおこしたような役員を絶対にあてぬこと。以上。五月三日湯河様は亡くなられ今井理事長となりました。それから年月がたつにつれ、貸室の方は借りて下さる方が少なくなり殊に教育大移転が一番の打撃でした。建物の老朽化も影響が多かつたようです。数年に一度の都庁の調べをすりぬけるのに苦しい思いをいたしました。篁会館は財団法人のため任意団体(篁会)への寄付はできないが、せめて竹早高校へできるよう、寄付行為の変更を聞きに今井理事長のお供で都庁へまいりましたが、無理との返事。結局篁会から事務費の一部を寄付していただくことで経営を続けました。六十二年春、今井様御病気で辞任、七月亡くなられました。私が責任者になってからは隣地(表通り)所有の会社との接触から始まり、その会社の方針が変わってゆくのも時節がら仕方のないことで苦労しました。結局売却。色々の苦痛も味わいましたが、私が先輩の言い残されたことを守り通すのに、十四回深沢様の温かい労りと、理事評議員の中で私に協力して下さった方々に支えられて決着いたしました。土地売却金の処分につきましては、前述篁会へは寄付が不可能ですが竹早高校への寄付を可能にする為、寒期中、水原

関西 篁 会

関西篁会会長 河合 道子

篁会の皆様、お元気でしょうか。昨年十月の関西篁会へは、本部役員、会員の方々に多数御出席頂き有難うございました。今年度は九月二十八日新京都駅にオープンのホテルグランピアを予定、皆様のお越しをお待ち申し上げます。関西に住んで四十年、東京とは違う格別の風情を日々身近にしています。一つには、歴史のフィールドワークに事欠きません。例えば私は京都の山科に住んで居りますが、自宅近くの大石良雄旧宅跡は京都東山を越える古



い硯石街道に面し、東海道逢坂ノ関を一望に収め、当時の一力茶屋はこの関所に程近く絶好の拠点でした。又、これを五キロ南下した醍醐寺は、秀吉が片桐且元に命じ全国から見頃の桜を集め植えさせ、あの花見を開いた所。東海道の裏の要所として、伏見城、淀城、奈良街道等の抑えに格好の地、等々歴史の一端、位置、距離、地形が実際に手に取る様に分ります。それらが関西に様々な時代のひだを刻み、又各県都邑が各々異なる個性を合わせて、併も共存している不思議な楽しさを感じます。どうぞ皆様方も関西各地へ度々足をお運びになり、個性的な風土を発見なさって下さい。終りに篁会の益々の御発展をお祈り致します。

平成九年春

湘南篁会

会長 神谷 美喜子

私も大分長い間湘南篁会と云う御役を承っておりますが、だんだん不精になって申し訳なく、新しい会長さんをお迎えして、進展を計る事になりました。

新会長さんは四十一回卒松本紀子さんでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

年一回の御集りもだんだん御若い方の御出席も増え賑やかになり、お世話係も移行して参っております。尚、暫く会計の事等は、加藤様(三

十八回)河野様(三十八回)のお世話になると思います。高校の方は彌永桂子様(高校三回)よろしくお願ひいたします。

篁寿会

北島 末子(高女四十八回)

「最後の篁寿会」

足踏みしていた桜も二分咲きの三月二十六日に、学士会館で篁寿会が開催されました。長い歴史の篁寿会は明治生まれの先輩方によって始まりましたが、今回で幕を閉じる事になり、その思いの深まりからか、三〇〇名の申込みに幹事の四十八回生は嬉しい悲鳴でした。

当日、開会の辞は村井小枝、ご挨拶は会長の小泉節子様ご病気で欠席の為、代りに湘南篁会会長の神谷美喜子様(三十一回)にお願ひしてお言葉を頂き、篁会会長、城戸崎愛様(四十三回)も公用でご欠席の為、同級の清水愛子様にお言葉の代読をして頂きました。祝宴に移り乾杯は篁会館理事長、吉澤とよ様(三十五回)のご発声で会食となり、歓談のひとつときは、しばし高女時代の顔に戻りました。そして、昨年の篁寿会で好評でした為、再びご登場頂いたのは、飯村孝夫先生(現竹早高校教諭)のバリトン独唱、歌と共に巧みなお話で、和やかな雰囲気になりました、続いて四十八回生のコーラスに

校章制定の思い出と近況

旧職員 辻 忠二郎

色紙に墨で竹を描いていたら、竹早高校の校章のことを思い出した。あの校章の制定については、まことにおかしな私だけの思い出がある。

戦後の学制改革で旧制中学や高等学校が新制高等学校になったのは昭和二十三年で、その年の三月に卒業した五年生たちが旧制の中学・高等女学校最後の卒業生である。ただし、その中の一部の生徒は新制高校の三年生として残り、高校の第一回卒業生になった。したがってその下の四・三年生は高校二年生と一年生になり、それぞれ二回生・三回生として卒業したのだ。さらに下の二年生は臨時に設置された併設中学に入って高校の四回生になった。その下の学年は切替えのために募集されていなかったのではなからうか。

だから区立新制中学からの生徒だけで学年を構成したのは、五回生以降なのだ。ただしこの頃には毎学年級増をしたから、四回生は併設中学の生徒だけでは足りず、区立中学からの希望者を補欠募集した。その時に男子も初めて入れてみて男女共学に踏切ったのだが、それはわずかに五人であった。それでも翌年には本格的に男子五十人を入学させ、ついで百人に増員した。

ところでこの学校はもと府立第二高等女学校であった。それが都制施行で都立第二高女になり、新教育制度の発足で都立第二女子高等学校になった。そこへ男子を入れ始めたから、この名称は不適切になって最後に竹早高校と改称された次第。だが名称以外にも数々の問題が起こり、私が今度思い出したのは校章のことなのである。

竹早の名は町名に由来する。現在は文京区小石川だが当時は小石川区竹早町で、正門の向側は同心町。そこにある市電の停留所名が同心町だったので併設されていた府立の女子師範学校は「同心町の師範」と呼ばれていた。

またこの二校は姉妹のような関係で校地・校舎を共有し、校長はじめ職員も同一メンバーだった。同窓会も一つで、群生する竹の意味で篁会を名乗っている。どちらも府立で女子だけの中等学校同士だったから、それが自然の成行きであつたらうと思われる。

ところでこの学校の校章は女子生徒が胸に付ける美麗な七宝で、何本かの竹の図に第二(後に竹早)という文字が入っていた。これを男子生徒の帽子に付けたり、見られたものではない。そこで改めて学生帽にも適した校章を制定することになり、或る図案家に依頼してその石膏模型を取寄せた。それが職員会議の議題にされたのだが、当時は議長役も務めた校長さんが満足そうに、この模型を披露された。

師範と分かれて最初に着任された校長は中路正義先生で、新制高校としての竹早の初代校長になられた。先生は日本生物教育会の創立者で、私の恩師でもある。その校長が示した模型はかなり大きくて、末席からでも良く見えた。やや幅が広くて寸詰まりの笹の葉のようなものが三枚上を向いていて、それに竹早の字が乗せられている。

ただしその葉の形が、私には納得出来なかつた。先生方はみな「結構ですな」という顔付きをしている。だが私は校長が「それではこれに決めることにして」とおっしゃる直前に手を挙げて「その葉は竹らしくありません。竹の葉はもっと細くて、下を向いている

移りました。伴奏は前半を出口庸子に、後半の伴奏を船越由紀子にて、日頃の練習を披露しました。又、皆様との合唱、校歌斉唱と続き、閉会の辞は宮原栄子により、サムエル・ウルマンの「青春」という名の詩」からの引用で、「年を重ねただけでは人は老いない。理想を失う時、初めて老いる。」と締めくくりました。

告知

一昨年迄篁会館で催しておりました観劇会を、昨年からは篁会の観劇会となりましたので、御協力下さいませ。

日 時・六月十九日(木)

明治座六月公演「樋口一葉」

大藪郁子脚本 石井ふく子演出

主演 若尾文子 他榎本孝明・坂口良子・宝生あやこ……

◎百年ロマン、明治の才媛・樋口一葉の半生……

※観劇料は一万二千円を割引いて

一万一千円になりました。

☆送金は 郵便振替

〇〇三〇一八―五五八八四吉澤とよ子

☆お問合わせは

〇三(三九五七)六一六四 外口

〇三(三九六〇)〇三二七 吉澤

ものです」と言って反対した。

ところがそれを聞いた校長は、こちらをじろりと睨んで「若竹の葉は上を向いとる」と、きつい調子でおっしゃった。それでも私は不満で「竹どころか笹にも見えないや」と思ったが、とにかく黙ることにしたのだ。それで生物屋同士の論争は回避され、職員一同はやれやれという顔になった。あれから五十年がたつて、私は現在七十六才。何もすることがないから、近所の奥さん方に俳画を教えて遊んでいる。俳画は日本画の一種には違いないが、定義も約束もないから気楽なものである。それにしても理科の教師で一生を過ごし、絵筆など執ったこともない私にそんな絵が描けるのは、生物屋として自然を精密正確に観察し、また黒板にその略画を描き続けてきたお蔭なのに違いなからう。

去年たつた三人で始めた最初の頃に、私は竹を描かせた。それがもう二十人近い会員数になっているのだが、竹や蘭は筆使いの基本だから、それをもう一度勉強させ直すことにした。それで昨日は最初に教えたのより少し高級な描き方の手本を作ろうとして、まずは太い一本の竹を描き、その脇にやや薄墨で若竹を描き添えたのだ。

ところがその葉は勢いよく自然に、上向きに描くことになったではないか。私は途端にあの時のことを思い出した。そして同時に「校長、いや恩師でもあつた中路先生に、あれ以上食い下がらないで良かったな」と改めて考えた。竹の葉の図案の校章は、もう半世紀もたつて定着し、何千人もの卒業生に愛され懐かしがられている筈なのだ。「竹早の同窓生たち、上を向いた若竹の葉たちよ。幸あれ」である。

最近私が思うこと

山中 レイ子

(高校40回)

この原稿を依頼されてから何を書こうかとあれこれ考えましたが「コレ」というのが浮かびません。結果、最近私がおもうことなど、つれづれなるままに書こうと思います。

最近よく思うのは、人生にムダな瞬間はないものだなあという事です。たとえば、よい瞬間としては、人との出会い。竹早を卒業して9年になるけれど

今でも高校時代の友達とは連絡をとって、最近発見したことがありますが、自分がニコニコしていると良い方向へ導かれる法則です。よく母親が子供を悟す時に口にしますが、本当だと感じます。でも気分がLOWな時は無理に笑えないですよ。今まで5年間の私がそうだったんですが、転職後、環境が好転したら、ニコニコしているんです。「ニワトリが先か、卵が先か」という言葉がありますが、笑顔が先か、良い環境が先かは分かりませんが、でも笑顔にはいい運勢に導く何らかのパワーがあるらしいと思います。

なぜ急にこんな事を考えはじめたかと言うと、昨年、2度目の転職をした事がきっかけでした。満足して1つの仕事を続けている友人達を遠目に、「今の仕事に満足できない私って変なの?」と悩んでいたある時、「でも今までのいい事悪い事全部まとめて、現在の私につながっているんだな」と気づいたら、今まで経験した限りの喜怒哀楽の瞬間を思い出して「これだけの経験が今の私を作ってるんだから大丈夫♡」と妙に前向きに新しい仕事

に挑む事ができたのです。

他にもまだ、最近発見したことがあります。自分がニコニコしていると良い方向へ導かれる法則です。よく母親が子供を悟す時に口にしますが、本当だと感じます。でも気分がLOWな時は無理に笑えないですよ。今まで5年間の私がそうだったんですが、転職後、環境が好転したら、ニコニコしているんです。「ニワトリが先か、卵が先か」という言葉がありますが、笑顔が先か、良い環境が先かは分かりませんが、でも笑顔にはいい運勢に導く何らかのパワーがあるらしいと思います。

ここまですべて読み返してみると、「脳内革命」のような内容になってしまいました。と、いうことは、きつと皆が一度はなるほどと納得する事なのだと思います。私は二十七歳になって最近やっと、なるほど、と思えたので書いてみました。人にはその人なりのペースがあるように、私なりのペースにやっとな乗ってきたということでしょうか。

これからも、マイペースを保って、ひとつずつ私の人生を積みあげてゆきたいと思っています。

こんなこと
やってみよう



☆高女十四回☆ 大正三年卒
深沢 てる

極月三十日に 百一歳になります。視力はかなり つよく ぼけては居りません。

なお相手があれば 怪談をつづけており、たのしいです。

政治に ふんがいたり おこったり、 落合に あきれたり、

日本も一寸 どうかになりましたかね。冥土から 見る事に しましょ。

☆高女二十一回☆ 大正十年卒

近況：毎年たのしみにしておりましたお賀状も、ほとんど頂けませんでしたが、お電話で様子を尋ねましたら寝たきりのお方、耳の遠い方、車椅子生活の方、昨春秋以来一人暮らしが覚束なくおなりの方などでした。

訃報：有川(藤田) 幸子様には去る平成八年十二月二十三日ご他界遊ばされました由、ご長男様よりお知らせ頂きました。この欄をおかりして謹んでご冥福をお祈りし、あわせて同期の皆様にお伝え申し上げます。

☆高女二十二回☆ 大正十一年卒
向坂 ゆき

お願い：今後のご連絡は左記まで。
〒178 東京都練馬区南大泉三二七
十一 望月方 稗田(ヒエタ) 富子
旧姓宮川 電話〇三三九二一四八
二五

どうぞよろしくお願い申し上げます。
付記：
思えば明治の日露戦争の頃に生まれ、大正はなやかなりし時代に、一クラスだけの竹早旧校舎に入学。五年間、武藤先生・高木みつ先生受持の充実した若き日々でございました。昭和は波瀾万丈で過ごし、平成九年の今、「筆精神とこしなえ」と同期の誼みを賛え続けております。

☆高女二十五回☆ 大正十四年卒
高木 桂子(旧姓 吉田)

受験番号三〇三まで、その中から入学を許された五〇名が誇らかに桜咲き満つ校門をくぐったのは大正六年の春でありました。思い出せばこの五年が過ぎて卒業。送別会の席上恩師全員の合唱「はやも別れゆく名残ぞ惜しき、まさきくあれや行末かけて」のローレライのメロディにのる御声は、今なお私を涙ぐませる。大正十一年春なお浅き三月の末でありました。

その時の四四名も今は一〇名となつてしまいました。昨年は五月に大谷富士子様十一月に岡本さかき様の御逝去、残る十名も長期御入院中、御自宅御療

養中、おみ足御不自由な方、御嬢様御嫁様の御介護を必要とされる方など、九十二歳とはなんと悲しい歳でありましょう。

昨年敬老の日にかわいいぬいぐるみのワンチャンがクラスのお使者で御祝いに参上しましたが、およろこびのおたよりは殆んど、御心こもる御代筆でした。

この年齢で驚くべき御多忙の中今なおクラスのためお盡し下さいます峯島様と、暮に楽しい時を過ごさせていたいただきました「お伴が要るようになつたらもうだめ、ひとり歩きの出来るうちよ」「がんばりましょうね」とかたたく手を握り合つたお別れが忘れられません。エコーへの御報告もこんな淋しい二十二回生、母校竹早の名実共に御発展は心からのよろこびでございます。

☆高女二十五回☆ 大正十四年卒
高木 桂子(旧姓 吉田)

算会会報No7を頂きありがとうございます。ありがとうございました。

第二高女二十五回生は最近筆寿会も欠席し、何も協力できずお恥しいのですが、この度卒寿のクラス会を致しましたのでおしらせ致します。

大正十四年卒、二十五回生は一クラス五十人だけの最後のクラスで(翌年から甲乙二クラス)九人に一人という倍率で入学した才媛の筈だったのでけれど、卒業後七〇年もたちますと四

十四人の卒業生中消息の分かる方は十六人となりました。なからくお引籠中の小野愛子様(女子師範第二高女の第二代理校長鈴木光愛先生の愛嬢)が三月に亡くなられ物故者は二十四人。

さて、卒寿のクラス会の御案内を十六枚お出ししましたが、脚腰弱められた方が多くて出席者はたった四人でした。

裏千家名譽師範の吉田慶子様は今もなおお弟子さんを指導なさり、佐藤仁子様は寿美仁という芸名で橋流の踊りにはげまれ、水泳の松浦様はマスターズコースでオーストラリアまで遠征なさいましたが、今はお目のわるい御主人様の介添役で泳ぐ方はおやすみとか。かく申す私高木も、足腰わるくて家中を這いまわりながら、まだお筆が捨て切れずにおります。何かしていると痛いところやわるいところも忘れるのよね、という合言葉で四人のクラス会はおわかりました。さていつまでつづく命やら、せいぜいなが生きしたいものでございます。

☆高女二十八回 ☆ 昭和三年卒
加藤 菊代

私どもは昭和三年高女卒業の乙組十八名でございます。今まで懇にクラスの世話をなさって下さってました荒井きく様が御主人様の御病気でご無理願えなくなりました。荒井様と源馬様は一同心から感謝申上げて居ります。

そのあとをうかうかとお引き受けしてしまつた私加藤は、もともとルーズな人間でお役に立てますか如何か我ながら心配で居ります。よろしくお願い申し上げます。

在校当時は、お義理にもしとやかなどとは申せません元氣活発な四十数名でしたけれど、いつの間にか十八名と少なくなりました。つい数日前の一月二十三日にも内田久子様が急逝なさいました。急なことでいらした由お妹様からお知らせがございました。段々に少なくなりましてこと淋しい限りでございますが、心よりお悔みを申し上げます。同級会を計画してみましても、お氣軽に出ていらして下さる方が少なく心細いのですけれど、せいぜい気持ちを明るく残る月日を楽しくと念じて居ります。

☆高女二十八回 ☆ 昭和三年卒
福田 千菊
電話〇三三三三三三三三三三三三三三三三

一年に一度のおたより、クラスの皆様の御消息をできるだけ多くお伝えしようと思いましたが、なかなか思うようには参りませんでした。杉様、石田様、松宮様、百瀬様はお元氣、大阪の河本様、大磯の粕谷様、正木様は小樽から愛知県小牧市にお移りになりどなたもお元氣、お身などの御都合で外出のおできにならない方もありますよ、三月二十六日、学士

す)

出席の皆様は実に元氣、皺が少し増えましたが昔のままに賑かに楽しい会でございます。

この年になり友達二十幾人も集つたり、時々グループで旅行したりで、よその若い方から驚かされている有様です。少し具合の悪い方も幾人かいらっしやいますがつかりと堪えて生活しておられる様です。皆離れておりますのでちよくちよくお見舞いも出来ず、お互いに近く住み助け合つて出来たらどんなに良いだろうと思つています。元氣な人達は良いお友達と時々語り合つ時を持って幸な事と思つています。この幸をいつまでも続けて参りたいと願つてございます。



☆高女三十四回 ☆ 昭和九年卒
岡 茂子

昨年の会報では、今年甲乙合併で傘寿のクラス会を開く予定と皆様方に

会館での集寿会に御出席おできになられませんが、第二で勉強して参りました頃は本当に楽しく博?の浜田先生、英語の平河先生、国語の出縄先生、の諸先生、折々にはお能、狂言、などを講堂で見せて頂き、三月の学年終りの音楽会には「流浪の民」の大合唱など、楽しい思い出が数々ございます。今の平成の方々はどうな御生活でしたでしょうか。時代もすっかり変わりました。竹早の方々も益々お仕合わせにあられますようお祈り致します。

尚、成瀬様、青木様はおなくなりになりました由、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

☆高女三十回 ☆ 昭和五年卒
沼田 さは

明治から大正に移りますその時代に生を受け、三〇回という分り易い回数をおたいて甲組はおとなしく乙組はやんちゃと云われながら、卒業生になりました。諸先輩方の御報告を拝見致せば?にお年とも思えぬしつかり、又社会的にも立派に御活躍の御様子感激致します。私共もすっかりお年寄りになりましたが年二回の甲乙合同のクラス会には三十名近く御出席になり、昨年は神戸奈良様が御出席、一同感激しました。不幸にも不帰の客となられた方も十名程いらつしやいます、(つっしんで御冥福をお祈り致します)



お誘いしたのですが、乙組の幹事の南さんが七月に亡くなり、もう一人の幹事の太田さんも健康がすぐれず、残念ながら甲乙合併のクラス会は中止になりました。南さんは甲組の幹事の川田さんと一緒に傘寿にふさわしい美味しい店を探す為に試食などしていらつしたのです。六月に入院なさり、わずかに四十日余りの療養で亡くなられました。昭和六十年頃から俳句を一緒に楽しんでいた私は晩年の思い出も多くの切ない気持ちでおります。甲組のクラス会は十一月に開き八名が集まりました。クラス会の通知に代筆のお返事があって、中川末子さんと横田歌さんの亡くなられた事を知りました。晩年おひとり暮らした同年の死は云いようもなく寂しく、一同御冥福をお祈りしました。乙組も八人お集りで大病をなさつた方もお元氣で御出席なさり楽しい一時であった事乙組の幹事の安藤夏子さんより伺いました。女学校時代の習字のお手本に、「少年老い易し」の一句がありました。八十年の月日がなんと早く過ぎ去つた事でしょう。竹早ではぐくんだ友情がいよいよ大切な時になりました。

☆高女三十六回 ☆ 昭和十一年卒
徳永 記

平成七年度のクラス会は十一月十三日一泊二日の那須への旅を致しました。

主として林さんが企画御手配下さり、閑散期的那須ゴルフクラブのロッジを利用、新宿集合解散のバス旅行です。参加者十三名。お天気にも恵まれ途中林さんの御案内をきき乍ら那須到着。レストランで昼食後陶器や草木染やガラス器等の展示場を見学。温泉街、殺生石を過ぎて茶臼岳にかかった頃から天気が変わり粉雪も舞い始めたので戻つてそのままロッジに入りました。夕食はシャブシャブとすきやきに舌鼓を打ち、夜は夫々温泉に入つたり広いロビーでおしゃべりに時を忘れ休んだのは十一時頃でした。翌朝はつきぬけるような青空。再びバスで茶臼岳へ。昨日舞つて居た粉雪が道の両側に吹き溜つて居ました。ロープウェイで頂上近く迄登りました。風は強く気温は3・5度のきびしさですが眺望は素敵でした。帰路は民芸館、和菓子のお店、湯

葉の店などに寄り乍ら塩原廻りで今市川治ダムなど経由しましたので紅葉も満喫しました。野猿の群にも逢いました。やがて暮れなすむ頃都内に入りました。お一人が体調を崩されお辛かったですと思いますが石森さんがお世話され、一同無事旅を了えました。以上御報告まで。皆様御元氣にお過ごし下さい。

☆高女三十七回☆ 昭和十二年卒
紅組幹事

三十七回生も、いつのまにか喜寿を迎えた人が大半となりました。不幸にも罹災された関西にお住まいの方も、肉親友人との悲しい別れにあわれた方も、又御自身の病を克服してみなさま級会へ出席され旧交をあたためております。昨秋は十九名が集り白金の「縹」で楽しく語り合いながら懐石料理を賞味致しました。

級友の中には、今も医者として、又幼児や音楽教育にたずさわり社会で立派に活躍されていらっしゃる方もあれば、元氣潑刺ヒマラヤヘトレッジをされたり、長距離ドライブをしてスキーを見事にこなしていらっしゃる方もあります。更に海外旅行を趣味とされ昨秋危機一髪ペルーから無事帰国された方もあります。それぞれが自分に適した楽しみをみつけて、明るくお互いに励まし合って過しております。



たい」との皆様希望から本年度は、四月二六日新宿植むら(出席者一五名)一〇月三〇日新宿長谷川(出席者一二名)の春秋二回開催いたしました。昭和十五年に卒業、戦中、戦後、を水兵服からモンペに変わり、今のスラックス姿までの半世紀以上をクラス会の話題で拾いますと、子育てと主人の転勤、子供の教育と結婚、家庭切り廻し、自分達だけの生活から主人を養う時代に区分されてきたようです。

どの時代をとりましても、耐久力と勇気と健康の三要素を問うことができませす。それと、何ですか「知性」と「美貌」、その文字は第二高女の字引にはありません。そこには「平穩」の二文字がクローズアップされています。高女卒の私達は三月に開催される「篋寿会」を楽しみにしておりますが、今年で最後になるとのことですので、多数の参加が予定されます。

☆高女三十八回白☆ 昭和十三年卒
瓜生田 俊子

平成八年も終わりに近づいて、土石流の事故やペルーの日本大使館公邸のテロの事件等で胸が痛みましたが、平成九年は良い年であればよいと思えます。

私達も七十を半ば過ぎてしまいました。元氣に集まりあえば嬉しいと思えます。

昨年は鹿江さんと後藤さんの親子一緒の幸福な生活をお知らせしましたが、今年も細谷さんと伊部さんの同じようなお知らせが出来ます。嬉しいことです。夏は又、宇野さんの絵の展覧会があり、いつも大作ですから楽しみにしています。篋寿会もあと二回で終わるとおきましたので、今年も来年もなるべく沢山の方が出席して下さいはよいと思っております。クラスの皆様の御活躍と御健康と御幸福を祈ります。

☆高女三十九回紅☆ 昭和十四年卒
四谷 桂子

平成八年度のクラス会には稲見様、岩間様のお世話で、四月二十三日東京灣を見渡す竹泉(日本料理)で開催されました。今年は更にパッと賑やかになると稲見様の御趣向のように大変盛り上がったクラス会でした。終りには、春のうららの隅田川、と十八名の大合唱

☆高女四十一回☆ 昭和十六年卒
岡辺 宏子

クラスの皆様お元氣にお過ごしでしょうか。五月十三日に女子栄養大学内の松栢軒で開かれましたクラス会には二十五名の方が御出席でした。

辻堂の病院に御入院中でした服部先生。関根様、松本様、山口様が揃って五月三日に御見舞いにいらっしゃいました。時にはお元氣で「皆様によるしく」とおっしゃいました。一週間後の五月十日に九十三歳の御長寿にて御他界になりました。

心より御冥福お祈り申し上げます。御三方が心配していらっしゃいましたお墓の所在も判り、亡くなられてから御親類の方、御友人もみつかつて、お骨は御親戚の方に守られて御郷里のお寺に埋葬されました。

長い間親身も及ばぬ御世話をして下さいました方々に厚く御礼申し上げます。有難うございました。級友も一人減りました。十月七日に池田(宮古)裕子様がお逝去、御冥福をお祈りいたします。皆様、御体お大切に、悔ない日々を過してまいりましょう。

☆高女四十二回☆ 昭和十七年卒
手嶋(木暮) 實枝子

となり昔ながらの美声を奏でました。また岩間様が、お身体が弱く一度も会に出られない方々に一人ずつ電話で近況を伺っていただき、一同なつかしく思いました。一年づつ年を重ねてまいります。御出席の方々は皆様若々しくお元氣でした。

今回は谷田様、武井様に幹事をお願い致しましたが、どうか皆様くれぐれも健康に留意され今年も楽しいクラス会になりますよう念じております。



☆高女四十回紅☆ 昭和十五年卒
稲葉 良子

社会を覆う閉塞感と事件続きのかまびすし。さから平穩でありたいと思うこの頃です。

一昨年まで、年一回開催が慣例であったクラス会を「旧交をさらに深め

この一年間、また例年と同じように楽しく過ごせました。でもまた悲しい事もありました。春から夏にかけて、前田(井出)様、山崎(森)様、を失いました。あまりお病みになることなく、あっけなく逝かれて、皆、声もありませんでした。「合掌」

さて、昨年の新年会のあと、私達の公的な会は、篋寿会でした。本会のあと別室で、ミニクラス会、四十三回生の方と半分コでそれぞれ遠慮なくお喋りでした。次は六月に恒例の、二泊三日の旅行、佐渡でした。丁度甘草の花のさかり、三日間快晴で、黄花草の大部分に囲まれて、日本海と青い空を眺めての散策でした。



十四名の参加で、旅館側が、上品(?)なお客(私達のことです)だからよからうと、宮さまがお出でじゃな

いから、あいているので貴賓室を使っ
てくれと(但、全員で。宮様御夫妻の
何倍の人数でも、ルームが三つと三十
畳のリビングなので、快適)楽しく過
ごしました。

十月末に学士会館でクラス会、四時
間楽しめました。その折の一人三分程
のスピーチでは、このトシ(七十一、
二)になっても皆様意欲的に動かされて
いる事に、頭が下がりました。
忘年会、新年会を経て、さア今年も
元気で楽しく過ごしましょうね。

☆高女四十三回☆ 昭和十八年卒
百竹会

平成八年には私共百竹会にとって、
悲しい出来事が次々と起りました。

先ず小林健道先生が四月末に、藤井
幸子先生が十二月末に御逝去になりま
した。共に担任として、やさしく、時
に厳しく私共を教え導いて下さった五
十余年前の日々を思い起し、改めて感
謝の気持ちかわいてまいります。亦お
二方は卒業後のクラス会を毎年楽しみ
にしている下さり必ず御出席下さいま
した。その折には先生の御近況をおき
きしたり、色々楽しくお話することが
出来ましたのに、もうお目にかかれな
いことは本当に寂しいことです。

亦旧友椿安子さんが五月に、中島節
子さんが九月にお亡くなりになりまし
た。百竹の一本一本が失われてゆくこ

8年9月8日に、野間かほる様が亡く
なられました。心から御冥福をお祈り
申し上げます。

☆高女四十六回☆ 昭和二十年卒
「若竹会」 泉 良子

私達「若竹会」のメンバーが、府立
第二高女を卒業したのは、昭和二十年
三月でした。激化する空襲のもと、
「動員」の日々で、八ヶ月後には敗戦
の日を迎えることなど知るよしもなく、
本来五年生になれる筈が繰上げられ、
四年生での卒業でした。期し難いけれ
ど再開の日を願い、級会の名を「若竹
会」ときめて別れました。

戦後、級会も開かれるようになり、
平成八年十月十八日には、卒業後五十
一年目の「若竹会」を、吉田(岡田)
幸子先生を囲んで、三十余名が集い、
グランドヒル市ヶ谷で開きました。

小林幸輔先生は、途中まで来て下
さったのですが、体調を損なわれてご
欠席。でも、来年を楽しみにしていま
すとのお便りを頂き、安心致しました。
吉田先生は昨年米寿を迎えられ、お
祝いに差し上げた胡蝶蘭をととても喜ん
で下さったのも、嬉しいことでした。

私達はもう「若竹会」の名が少し恥
かしい年輩になりましたが、八十九歳の
吉田先生のご様子を拝見し、お話を
伺っていると元気が出て、楽しく語り
合い、来年の再開を約束しました。

とをとても悲しく思います。心から御
冥福をお祈り致します。

こんな中で年一回のクラス会は、六
月八日、やんも、という青山の川魚料
理屋で開かれ、二十九名が元気に集り
おしゃべりしながら昼食をおいしく
いただきました。

私共は平成九年には各々の誕生日に
七十二歳になります。御自身体調の悪
い方、高齢の家族を看^まり苦労している
方等、夫々異なる生活の中にありますが、
牛にならって日々穏かな心で過し、次
の会では一人でも多くの方々にお目
にかかれれば幸々と思っております。

☆高女四十四回紅白☆ 昭和十九年卒
佐藤 智恵

私共平成八年の級会は、前年々々年
と続けて東京から離れましたので、今
回は集り易いターミナルの「美濃吉」
で開きました。梅雨の中休みの好天に
恵まれ三〇人出席の盛会で久方ぶりの
小林富士子・長谷川澄子さん方からの
近況を緒として女学生にもどつての楽
しい語らいが続きました。又数学の岡
田章先生逝去の由伺い、短い期間でし
たが強烈な印象と数学に対する興味を
植えつけて下さった想い出も一しきり
賑わいました。係の女中さんが「古稀
の集りとは思えない若い皆さん」と
云って下さいました。余り事々しく御
祝いもせず今日こうして集まれる身を

九十六名のメンバーの内、亡くなつ
た方は十四名です。名簿には、中国か
らの留学生で同級だった黄満紅さんの
名もあり、何とか消息を知りたいもの
と皆思っています。

☆高女四十七回☆昭和二十二年卒
須藤 芳枝

今年の筆寿会(平成八年三月二十六
日)のお当番は、私達の学年でござい
ました。そのために、私達は何回か打
合せの会合をもちました。まだ寒さが
残る二月、クラスの皆さんは御多忙な
中を集まって下さり、宛名書きをはじ
め、名札書き、プログラム作成など、
いろいろとお手伝いして下さいました。
また貴重な御意見をきかせていただき
たり……。いうならば、クラスの方々
の愛に支えられまして、つつがなく筆
寿会懇親会を持つことができたという
わけです。

その後、クラスの方々が私共同窓会
役員のために慰労会を、開いて下さい
ました。私共委員として不行届きな点
が多々ございましたように、その
お心遣いに唯々感激いたしました。こ
の大役を終らせることができましたの
は、クラス全員の協力があったること
とつくづく思いました。ほんとうにあ
りがとうございました。
私共にとって竹早での生活は宝物で
す。お互いに健康に気をつけて、今年

感謝して紅白のお饅頭をお持ち帰り頂
き散会いたしました。膝・腰等色々故
障もあり乍らこのところ悲しい御別れ
もなくと思つて居りましたが、九月に
草野静江(石川)様、御逝去なさいま
した。近年は体調がすぐれず級会も欠
席つづきでいらつしゃいましたがお音
に御堪能で御孫様をとていとおしん
でいらつしゃった御由、心より御冥福
を御祈り上げると共に御家族皆様に
御悔み申し上げます。残る私共も国の大
きなうねりと共に生きて来た七〇年、
残る年月を無理なく明るい方をみて暮
して行き度いものでございます。

☆高女四十五回☆ 昭和二十年卒
青木 美樹子

昨年のクラス会には横山(下泉)陽子
様、蒲いと多様のお骨折で十月十二日
に新橋駅から下駅「ゆりかもめ」に
乗った先の竹芝プリンスホテルで開か
れました。話には聞いていたものの、
生まれて始めて「ゆりかもめ」に乗
たという人も多く、晴天に恵まれて三
十八名も集まりました。楽しいクラス
会のと、有志が「ゆりかもめ」に
乗って、ウワサに高い臨海副都心なる
ものを見物しました。

今年の幹事は倉岡小夜様、越沢(尾
崎)正子様が決まって、一泊旅行にす
るかも(?)という話が出ています。
最後に悲しいお知らせですが、平成

の再会を楽しみにいたしております。

☆高女四十八回☆ 昭和二十三年卒
白鳥 洋子

高女四八回生の一年
平成八年も竹の香コーラスを月一度
のペースで続けました。塩崎先生に早
朝からいらしていただき、出口さんの
指導も調子に乗ってまいりました。九
月には八ヶ岳山麓、原村の筆会後輩の
民宿(フェローズ)で昨年に引き続き合
宿し、二十一人集まりました。幹事は
安田・押見(昨年村井)で、平成九
年の筆寿会の段取りの一部ですがが
しい高原の空気の中で相談致しました。
級会は十月四日に中野の日本閣で加
唐先生をお囲みし、三十六人集まり楽
しく半日を過ごしました。幹事は磯野
・清水・藤田淑子・清水・森でした。
私達は年毎に気持だけは若くなり、
学生時代に見えなかつた何かが見えは
じめ、皆優しくなつてまいりました。

坂道は下るのが難しいと申します。お
互に助け合いの輪を少しづつ大きくし
て、支え合いつつ生きてゆきたいと
思っております。

☆高女四十九回☆ 昭和二十四年卒
☆高校 二回☆ 昭和二十五年卒
黒岩 秀子

今回の幹事役、入澤・金子・駒野・

小平・長縄様・黒岩の計六名で、クラス会を、昨秋十月二十六日、赤坂の吉祥で催しました。加唐先生を中心に三十四名の御出席。今回は、お席を何時ものグループとは違ったお顔合せも又よいのではないかしらと、クジで決めました。わざわざ遠方よりおこしいただきました方々。又卒業以来ともいえそうにお久々の御出席の方々と、お懐かしいお顔やお声のお話しぶりに、セーラー服当時を想いおこし、又季節の美しく美味しいお料理をいただいております間に、アツと時は経ち、おなごり惜しうございましたが、次回でのお目もじを楽しみに閉会となりました。

はや私共も六十五の年金年齢の人生節目の時を迎えました。でも皆様心身共にはつらつと。まだ現役でお仕事をなさったり、国内外の福祉活動に、又各々の御趣味にと活躍なされ、激動の日本と共に歩んできた経験をふまえ、竹のようにすがすがしく、しなやかにおすごしの御様子でした。

次回四月より幹事を、青木様・大塚様・片寄様・町井様・持永様がお引き受け下さいました。よろしくお願ひ致します。

☆高校三回 ☆ 昭和二十六年卒
 篁燦会 秋葉 美枝

卒業してはやくも半世紀に近くなり会を重ねることに、なつかしさも増し

以下は現在までの活動です。①昨六月八日私学会館での総会後、炎暑の中期会。会場設定、開催方法を巡り議論白熱せるも結論を得ず散会。②昨九月二三日、竹早文化祭を年度幹事他で見学、会場としての体育館使用の可否懇親会会場に宛つべき部屋の有無検討③昨九月二十九日、総会開催に向けての同期会を茗溪会館にて。趨勢としては、新築披露も兼ね、母校を使用させて頂く方向に。④竹早高校落成記念パーティに有志と出席、地下食堂を拜見、ケータリングに頼らざるを得ないことを実感。

今後の仕事としては会報広告のとりまとめ、会報発行作業、その他の事務的なこと、会場セット、役割分担等山程あります。多くの困難はありますが、いざと云う時の皆様のお力添え、昨年来、どれだけ有難く心強く思っているかわかりません。又、長年篁会理事としてキャリアのある山広俊雄氏の実力とリーダーシップに期待を抱きつつ、皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

☆高校十回 ☆ 昭和三十三年卒
 角掛 隆

昨年は同期の総会を十月五日に予定していましたが諸般の事情で流会になり申し訳ありませんでした。今年には必ず秋に行いますので、よろしくお願ひ

てまいりました。

私共三回生といたしまして、篁燦会と云う会名を決めてから二度目のクラス会を、平成八年五月十一日に開催いたしました。出席者三十名、丸の内東京会館内のレストランで皇居の新緑を背景に大変楽しいひと時を過ごすことができました。ご協力くださった方々に幹事一同感謝いたしております。

今回は、今年の秋ごろにでもと、次の幹事さんからお聞きしておりますので、皆様奮ってご出席いただきたく存じます。

クラス会も、若い時とは多少趣きも違つて、話題にのぼる事も、子供の事よりも孫の事が多くなつたり、又悲しいお知らせをいただいたりする事もあります。

総会のお手伝いをさせていただいた還暦の年もはるかに越えて、これからはますます美しく年を重ねる努力をして行きたいと思つております。そのためにはまず健康第一、篁燦会第〇〇回となるよう、がんばりましょう。

☆高校四回 ☆ 昭和二十七年卒
 井上 芳江

平成八年度の紫竹会は、五月十九日母校に近い文京シビックセンター二十六階スカイホールにて開催され、二十九名が出席、一年振りにお逢いした方、また久し振りにお目にかかった方、そ

します。予定がきまりましたらハガキでお知らせいたします。又会場が良い場所がありましたらご推薦下さい。

電話 〇三(三八二)〇二一〇
 FAX 〇三(三八二)〇〇六四

☆高校十一回 ☆ 昭和三十四年卒
 堀江(足立) 禮子

西暦二〇〇〇年に還暦を迎える十一回生は、戦前の「生めよ 増やせよ」時代の申し子達であり、戦後の新制教育受洗の一期生。そして二十一世紀の超高齢化社会の又、一期生ともなる訳ですから元氣にならざるを得ません。共生の二十一世紀のバイオニアたるベク(?)、小さな輪を広げつつあります。その源のひとつは、卒業後に完成した「竹早会・八ヶ岳寮」。長い使用後放置されていた「寮」の再建の為に私財を擲つた父上をもつ岩田(沢登)さんと同期の私達は、ここを起点に少しづつ機動力をつけています。

そこで昨年は、二〇〇一年の篁会総会担当番にも備えてと、急遽「同期会」を十一月九日、文京区のシビックセンターで開催しました。急の決定の為準備不足もありましたが、担任では國広先生の御出席を賜り、七十名の方々との旧交を暖める事が出来ました。生き生きと御活躍の方々からは、そのエネルギーのお裾分けに与り、老親の介護に心身を擦り減らす方々のお話し

れぞれに時は流れても集まれば一足とびに少女時代に戻り、華やかな声が響きました。これからも良い友人関係を保ちつつ会を続けてゆきたいものです。

さて今回は前田照子さんから、ちょっとユニークな縦につながったメンバーの、活動のご紹介がありましたのでお知らせします。

かつて東京YMCAでフォークダンスを楽しんだメンバーが十余名集まり、生活を豊かに、社会に寄与、親睦のため、そしていけないようにとハンドベルの演奏をしています。高校三回卒の故岩瀬富子さんの発案で前田さん、六回卒の五十井始子さん、柏原聖子さんがこのグループに参加。練習場を借りている区の文化祭、教会のクリスマス、その他飛び入りの行事に演奏をするため、毎週土曜または日曜に集まって活動しています。指揮者も昔の仲間なので皆気心の知れた仲、ときには練習そっちのけで、おやつ後の談話、夜の会食など楽しんでいるということです。

☆高校七回 ☆ 昭和三十年卒
 志賀 真砂子

七賢会の皆様へ
 以前より度々この欄でお知らせしました通り、今年6月8日の篁会総会は私達が当番幹事です。この事に就きましては、既に昨年より有志の皆様で何回も会合しご協力頂いて参りました。

からは二十一世紀のあるべき姿を、それぞれが模索した一日となりました。初夏には、「八ヶ岳寮」で学習会でもと考えています。

☆高校十七回 ☆ 昭和四十年卒
 對崎 俊一

一九六五年卒業の我が一七回生は、三年生の秋に東京オリンピックを経験しました。それ故か?四年に一度のオリンピック開催の年に同期会を開いてきていますが、昨年は七月二〇日、あの帝国ホテルにおいて、盛大な同期会を開催することができました。松原コト先生を初め五名の先生方にご出席を賜り、生徒の方は一〇一名の出席でした。クラスによって出席率にバラつきがあったのは何故でしょうか。

さて、次回同期会は二〇〇〇年ということになりましたが、代表幹事吉田光之君の耳には、「ソロソロシダカラ四ネンモマテナイ」との声が大分届いているそう、同代表も来年あたりには開いても良いとの気持ちを持ち始めています。諸兄弟にはお楽しみに願ひます。八ヶ岳寮の一泊案などはいかがでしょうか。

なお、昨年の同期会に際し作成した同期生住所録が吉田光之君(文京区向丘一七一一四、TEL三八一四一六六七七)のところに残っています。ご希望の方は同君までご連絡下さい。

☆高校十九回☆ 昭和四十二年卒
木寺 千恵子

昭和六十一年から始まった私達の同期会「一休会」も毎年時間を都合して五十名程集まっています。
今年卒業三十周年という事で、六

OB・OG会だより

吹奏楽部



平成七年度会長 藤倉 明雄
高校四十五回
平成五年卒業

竹早高校吹奏楽部OB・OG会は、創部以来の出身者を対象として成り立っております。活動は主に現役生たちの演奏活動に対する協力を中心にしております。今回、当部を十三年間御指導なされた顧問の鴻上先生が昨年四月に異動されたのを機に、先生の送別会を催しました。

送別会は自由な懇談を中心とし、多くの方々が知り合えるように進めていき、そのような中で過去の演奏会のビデオを流したりしました。会場の雰囲気盛り上がり、先生に、先生にチェロを弾いていただきましたので、一瞬会場も静まり、臨席した方々の注目が先生に集まりました。小品を数曲弾いていただき、最後の曲が終わったときには、会場全体が現役時代を思い

理事会報告

平成八年度には、次のとおり理事会を開催した。
○五月十八日 出席二十二名 委任 十名

▽議題一 平成七年度事業報告及び決算報告について
独自に活動している会報委員会及び同特別会計を理事会の活動に含めることとし、また、前年度までの繰越金額の記帳誤りを訂正することとして、いづれも原案どおり決定した。
▽議題二 平成八年度事業計画及び予算について
一、新校舎落成記念及びその関連行事に協力すること、次年度総会に諮れるよう会則の見直し検討を急ぐこととして事業計画を決定した。
二、新校舎落成記念等、特別な支出については、特別会計として取り扱いは会長に一任することとして予算を原案どおり決定した。

▽議題三 総会の開催について
担当学年の西森道子理事から、計画の詳細について報告され、報告案どおり決定した。
○九月二十七日 出席二十三名 委任 八名

▽議題一 平成八年度総会報告について
西森道子理事から報告された。(算会総会報告・別掲)
▽議題二 校舎落成記念式典及び祝賀会について
議長から実行委員会の状況について報告があり、算会から祝賀会の記念品等のため五十万円を贈呈し、落成記念として掲示板(約百万円)を贈呈することを決定。
▽議題三 その他
一、関西算会総会に会長代理ほか二名を派遣することとした。
二、観劇会の実施について担当の吉沢とよ理事から報告され、収益六万四千

月に箱根への一泊旅行を企画してあります。名誉幹事の菅原さんをはじめ、毎年交代で、クラス毎の幹事が選ばれ会を続けております。

いつも御参加して下さい、岡野・織戸先生をはじめ、桑原・三上・国広・棚橋・金子先生と、ご出席して下さい

出すような新鮮さに包まれ、非常に貴重な体験をしたように思います。

今年度からは顧問の先生が変わり、現役生たちは運営・演奏の両面において苦労の連続ですので、当OB・OG会も様々な場面において協力していきたいと思っております。現役生は今後活動をしていきますので、皆様も機会がございましたら見に来ていただけますと励みになると思います。今後どうぞ宜しくお願い致します。

生物部OB会

川北 裕之
高校二十九回
昭和五十二年卒



平成六年新宿で生物部OB会が開かれました。歴代顧問の辻先生、三上先生、加藤先生、楠本せんせいをはじめ六十二名の参加者がありました。六十代から十代のOBまで集まり、年代を越えて楽しい交歓の場となりました。

先生のお話も、又、楽しいものです。恒例のビンゴゲームも好評です。旧友とのつかの間の宴を楽しみに、一人、また一人、と新顔が参加して、会を盛りたてていけると良いと思っております。

高校時代、生物に入学したせいか、私は、高校(千葉県立小金高校)で生物の教師をやっております。今、学校の中庭に井戸を掘り、池や小川、田んぼを作りました。メダカやカエルを放したところ、たくさん増え、ギンヤンマやオニヤンマ、そして生物の授業で有名なプランナリア、ヒドドラまで発生しました。昔は田んぼだらけの場所でしたが、今、周辺は、マンションや家に囲まれています。自然を呼びもどす試みは大成功でした。

生物部OB会は来年か再来年、開催する予定です。次回のOB会は百人規模で竹早の近くあるいは、竹早の中で行いたいものです。前回OB会の案内状が届かなかった方は

阿藤 正道さん(二十七回卒)
田中 治夫さん(三十三回卒)
川北 裕之(二十九回卒)
FAX〇四七(三三七)九九三三
まで連絡をお願いします。

平成7年度会計報告

自・平成7年4月1日 至・平成8年3月31日

収入	
平成6年度より繰越	10,766,223円
受取利息	103,607円
入会金・会費	1,345,000円
その他	4,400円
合計	12,219,230円

(注1) 会報委員会関係は別会計です。
(注2) 前年度からの繰越額が、前年度会計報告より3,833,230円増額しているのは、前年度までの会計報告における計上もれを計上したことによるものです。

支出	
贈呈記念品費	398,078円
総会補助費	300,000円
新入会員名簿制作費	78,280円
アルバム復元費	124,836円
事務委託費	120,000円
理事会会合費	269,888円
通信費	122,699円
慶弔費	20,000円
雑費	1,081円
合計	1,434,862円

収支差額	
収支差額	10,784,368円
平成8年度へ繰越	10,784,368円

(内訳)	
郵便貯金	2,581,885円
東京都教員信組普通預金	644,382円
同上定期預金	5,760,402円
あさひ銀行普通預金	1,666,508円
現金	131,191円

余円の会計繰り入れを決定。
三、九年度総会について、担当学年の山広俊雄理事から次のとおり報告があり、了承した。
期日 平成九年六月八日
場所 母校

四、会則検討委員会の状況について對崎俊一理事から報告があり、種々発言があったが、次回理事会にたたき台を提出することとした。
○十二月十三日 出席二十二名 委任 四名

▽議題一 会務の状況について
一、関西算会総会への出席について、清水愛子理事から報告があった。
二、校舎落成記念式典及び祝賀会について對崎俊一理事から報告があり、併せて山広俊雄理事から行事に関する算会関連の会計報告があった。
三、次回総会の準備状況について山広俊雄理事から報告があった。
四、会報委員会の状況及び会報七号の会計について角掛隆理事から報告された。
五、財団法人算会館の現況について吉沢とよ理事から解散に向けて手続き中

であること、残余財産の処理方針等が報告された。
六、財団法人竹早会の現況について、同会から書面により報告された。
七、駒見宗信、平野隆史両氏を理事に選任した。
▽議題二 会則改正について
對崎俊一理事から検討会における課題について説明し、同理事は理事各自に検討を求めた。
○一月二十四日 出席二十一名 委任 十名

▽議題一 会則の改正について次のとおり決定した。
一、事務所所在地を母校内に改める。
二、監事をおくこととし、現理事のうち二名を振り替える。
三、理事の罷免については総会の決議によることとし、理事会の決定後、総会までの間は職務停止とする。
四、理事会、委員会の開催について、理事会は年三回以上とし、委員会は回数を示さないこととした。
五、入会金、終身会費を見なおす。
(二月十日記・文責 小山)

算会理事名簿

平成9年度

- 愛彌一(高43回) 子(高44回) 子(高45回) 子(高46回) 子(高47回) 子(高48回) 子(高49回) 子(高50回) 子(高51回) 子(高52回) 子(高53回) 子(高54回) 子(高55回) 子(高56回) 子(高57回) 子(高58回) 子(高59回) 子(高60回)
- 久俊(高35回) 良(高36回) 美(高37回) 章(高38回) 文(高39回) 照(高40回) 康(高41回) 末(高42回) 里(高43回) 智(高44回) 直(高45回) 昌(高46回) 道(高47回) 隆(高48回) 宗(高49回) 文(高50回) 政(高51回) 康(高52回) 雅(高53回) 信(高54回) 浩(高55回)
- 城小(高30回) 山崎(高31回) 久(高32回) 久(高33回) 久(高34回) 久(高35回) 久(高36回) 久(高37回) 久(高38回) 久(高39回) 久(高40回) 久(高41回) 久(高42回) 久(高43回) 久(高44回) 久(高45回) 久(高46回) 久(高47回) 久(高48回) 久(高49回) 久(高50回)
- 城小(高30回) 山崎(高31回) 久(高32回) 久(高33回) 久(高34回) 久(高35回) 久(高36回) 久(高37回) 久(高38回) 久(高39回) 久(高40回) 久(高41回) 久(高42回) 久(高43回) 久(高44回) 久(高45回) 久(高46回) 久(高47回) 久(高48回) 久(高49回) 久(高50回)

開催日時 平成8年6月29日 12:00~16:00
会場 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

平成8年度篁会総会会計報告

出席者	152名	来賓	7名	旧職員	6名
				現職員	1名
		会員	145名		
[収入の部]	1,138,691			(円)	
参加会費	872,000	一般会員(145名×6,000)	870,000		
		学生会員(1名×2,000)	2,000		
寄附金	100,000	祝い金	2口		
篁会補助金	166,691				
[支出の部]	1,138,691				
会場費・宴会費	889,650	(含むピアノ等使用料)			
来賓土産代	13,500				
講師謝礼	150,000	謝金	100,000		
		車代	50,000		
花束代	11,227	愛知前会長			
印刷代	16,892	総会プログラム			
雑費	463	来賓造花用リボン代			
総会準備金	56,959	郵便局菓子折・文具他	46,549		
		局止郵便料	10,410		

以上の通りご報告致します。
平成8年6月29日
平成8年度篁会総会当番学年(高校6回卒)
幹事 西森道子、柏原聖子

持って頂く。
誠に残念ながら、47回生に至っては、再三にわたる連絡にも拘わらず、何の反応も得ることが出来なかった。

3. 出席者の状況

出席者合計	152名	来賓	7名
		会員	145名
		(含出席未通知者8名)	
当日欠席者	20名(うち1名のみ会費納入)		

以上の通りご報告致します。
平成8年度篁会総会当番学年(高校6回卒) 幹事
西森道子
柏原聖子
小山紀久彌

1. 準備から開催までの経過について
- 7年 4月 総会当番見習いとして、同期に呼び掛け、案内発送作業を行う。
 - 5月 会場としてアルカディア市ヶ谷を選び(5回生菅沢百合子様のお口添えにより)、予約。
 - 7月 会報の当番学年幹事を引き受け、編集作業に参加。理事会に総会の計画概要を報告、承認を得る。
 - 9月 前期当番の5回卒から総会業務を引き継ぐ。
 - 10月 総会での講演につき検討、講師を選定。
 - 8年 3月 古屋和雄氏に講演を依頼、承諾を得る。篁寿会に出席、総会への出席を呼び掛け。
 - 4月 5・7・8回及び47回卒業会員に総会案内(会報)発送への協力を依頼。
 - 5月 総会出席ハガキの局留めを小石川郵便局に申請。11、12日、小石川郵便局で総会案内(会報)発送作業。当番学年及び7、8回卒合わせて延べ約70名の会員の協力を得た。学校に校長を訪ね、総会での挨拶を依頼。
 - 6月 ハガキから出席予定者名簿及び当日のプログラムを作成。幹事が会場を下見、最終打ち合わせを行う。各種準備の確認。29日・当日作業と運営。終了後の整理。

2. 開催の結果について
- ① 昨年度幹事の反省から、十分な会食時間をとり、概ね好評のようであったが、立食ではなく、着席としたため、先後の交流面で若干の不満が伝えられた。多数の年配者の参加を考慮すると、立食では疲労も考えられ、いずれをとっても完全な満足は得られないようである。
 - ② 講演、講師については好評であった。
 - ③ 会員の著書の紹介など、卒業生の関わる事項については、積極的に対処すべきと考え実施したが、賛否は如何であったか。
 - ④ 前回幹事の報告から、当番回となる3学年のうち、最上級生のみ運営になり易いとの指摘と、改善に努めるべきとの助言があったが、中間学年の40歳、下は20歳というのは、協力を呼び掛けても、実現は難しい年代であり、この制度は再考を要する。本年度は27回生より3名の出席があり、閉会の挨拶を受け

学校の現状



校舎落成記念式典・祝賀会

教頭 矢嶋 邦男

第一期工事、第二期工事と行われた校舎改築工事もすべて終了し、平成八年十一月二日(土)に、校舎落成記念式典・祝賀会が開催されました。式典は、完成した体育館で、祝賀会は旧定時制の食堂を使って実施致しました。同窓会からは、愛知富前会長、城戸崎愛会長さん他、二十五名のご臨席をいただきました。準備段階からの同窓会のご協力に感謝申し上げます。

当日は、東京都教育委員会、施工業者、近隣の高校、中学校、小学校の代表、歴代校長先生や旧教職員、旧PTA役員、地域住民の方々、現教職員、保護者の皆様もご臨席いただき、盛会裡に実施することができました。今後、百周年行事に向けてのご尽力

につきましても宜しくお願い申し上げます。
学校の主な行事

新装なった体育館で、初めての入学式が平成八年四月九日に挙行された。新一年生男子一六名女子二六名が入学したが、外部施設を借りての入学式でなく、自校の施設を使用しての入学式ができることは、校舎改築中に苦労された、同窓生諸君から見れば、素晴らしいことではないでしょうか。

地域に開かれた学校を目指し、校舎改築を機に、公開講座が開かれた。音楽担当の飯村孝夫先生を講師として、「ミュージカル入門」、平成八年六月一日(土)より、七月二十日(土)まで、一回三時間で十回計三十時間であった。他校にない講座ということでも人気が高く、定員三十名に対し、申込希望者が四一八名と多く、富坂警察署の警官に立会をお願いし、厳正な抽選を行ない、参加者を決定して、実施した。なかなか好評であった。今後も続けて欲しいとの要望があったと聞いている。

また、人工芝のグラウンドを使っている。校庭開放も予定している。今年度は、試験的に、平成九年二月末から三月初めにかけて、数日をテニスに開放する予定であるが、平成九年度は、年間を通して、半月程度、開放する予定である。

「新生竹早元年」をテーマに、平成八年九月二日(土)より九月二三日(月)まで竹早祭(文化祭)が行なわれました。九月二日(日)の本祭は台風一七号の影響で、生憎と午前中で中止となりましたが、九月二三日(月)は、台風一過の上天気となり、有終の美を飾って、新築なった本校での文化祭が、なんとか終了できました。

新築の体育館を使って、平成八年十月十九日(土)には、学校説明会が開かれました。五五七名と多くの中学生並びに保護者が参加され、施設、設備の充実に関心していました。竹早高校への入学希望者の増加が期待できる説明会でした。

平成九年三月七日(金)には、体育館で、卒業式が行なわれます。男子一〇名、女子一三二名、計一四二名が卒業します。これにより、卒業生総数は、明治補習科一四九名、昭和補習科一三一名、昭和専攻科七三名、第二高等女学校三二八四名、竹早高等学校一三二二名となります。同窓会のみますの発展を期待致します。

なお、平成九年度学校行事予定は
四月九日(水) 入学式
五月二八日(水) 体育祭
九月二日(日)
九月二三日(火) 文化祭
平成十年三月七日(土) 卒業式
です。

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

同窓会 篁 会

会長 城戸崎 愛
(高女43回生)

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

同窓会 西 篁 会

会長 河合道子
(高校3回生)

西出法律事務所

弁護士 西出紀彦(昭和36年卒)

事務所 〒530 大阪市北区西天満3-6-22北大阪屋ビル3階
TEL (06)365-9813 FAX(06)365-5968

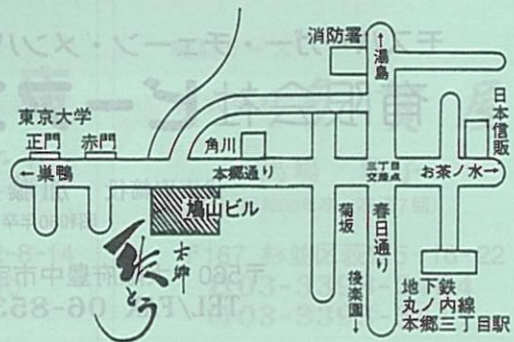
魚の好きな人の店 座敷、テーブル

本郷 佐とぅ

昼:11時半~1時45分 夜:5時~10時(休日:日曜・祝日)

〒113 東京都文京区本郷5丁目2番12号 鳩山ビル地1階

電話 03(3816)3224



通信協力金払込のお願い

会報は皆様のお払込みと広告費によって発行されております。
なお一層のご協力をお願いいたします。
同封の払込用紙(振込手数料はいりません)にてお忘れなく。

学校側のご要望により、創立100周年記念誌発行に向けて皆様お手持ちの同期会報、記念写真、
クラス会報や手記等をお寄せ下さい。コピーして保管したいと思います。(かならず返却いたします)
会報委員会一同

会報通信

鳥兔忽とは申せ会報の編集を担当して早くも8年の歳月が過ぎました。
8号の発刊を目前にして編集委員の方々のご苦勞に感謝いたしております。創刊当時はレギュラーメンバーだけで毎月第3水曜日に篁会館に集まり手さぐりで始めた会報。編集委員の募集、原稿の依頼、広告掲載のお願い等々、先輩の情報を頼りになんとかすべり出し、5年前には篁会館が閉鎖売却されたため、母校の一室を貸してもらい、同窓会・会員の皆様のご協力のおかげで、今日では同窓会の連絡にはなくてはならない存在になりました。
なんといっても編集委員が力づけられるのは、会報通信協力金千円の振込用紙に声援を送るメモが書かれているのを読む時です。創刊当時は女性のメンバーが多く、私などは肩身のせまい思いでしたが、3号になり二十二回生の渡辺信博君、5号で4回生の向井正昭先輩に加わっていただき、いくらか気が楽になりました。数年前からは

7号 会報会計報告	
平成9年3月15日	
振込み及び現金	2,371,000
<収入の部>	
正味金額	2,229,780
広告代金	699,279
受取利息	191,868
合計	3,120,927
<支出の部>	
会報発送料	1,002,291
制作費	1,785,610
編集費	195,132
発送昼食代	54,600
宛名シール	60,888
合計	3,098,521
差引残高	22,406
1~6号残高	6,784,568
合計	6,806,974
定期預金(1口)	4,000,000
第一勧銀(普)	617,764
郵便貯金(普)	2,015,195
現金	174,015
合計	6,806,974
会計担当	山廣 俊雄
以上相違ないことを認めます	
平成9年3月15日	
向井 正昭	

同窓会の当番幹事の方々が編集に数人加わる方針になりましたが、今考えている事はもっと若いメンバーに参加してもらい、バランスのとれた委員会にして行きたいと思っています。
西暦二千年には母校竹早は百周年の記念行事を計画しております。同窓会としては、それをバックアップして行かなければなりません。卒業生の情報・意見・要望等、なんでも、会報委員会へお寄せ下さい。卒業生同志の交流をもっと活発にして行く為、毎年当番幹事の方々が色々ご苦勞をされております。翌年の当番幹事さんへの引き継ぎもうまく行ってあります。念の為、当番幹事は毎年二十・四十・六十歳を迎える方々の学年です。
最後に長年同窓会の為につくされた深沢てるさん(百巻歳)が、今回エコー冒頭の投稿を最後に一月七日永眠されました。ご冥福をお祈りいたします。(深沢さんは会報の2号より3号をのぞいて毎年、最年長者なので冒頭に投稿されています。)
平成九年二月二十二日記す
編集委員長(高校十回) 角掛 隆

昔ながらの手づくり味噌、こうじ、金山寺みそ、生醤油等、製造販売直送しております

田村商店

田村 朋子
昭和30年卒 (高校7回)

鳥取県米子市角盤町2-69
☎0859-22-2814
FAX 0859-68-3500

末廣 鮨

鹿野 修
昭和30年卒 (高校7回)

大塚駅南口商店街
☎03-3971-4452

地域医療の一員として貢献する
ダイチ薬局女塚店

近 幸子
昭和30年卒 (高校7回)

〒144 東京都大田区西蒲田5-19-1
☎03-3731-9352
FAX 03-3731-9366

渡辺 千鶴子

森 慶子

牧島 統子

深瀬 徳子

芳賀 佳子

二木 升子

新倉 護郎

中川 学

志賀 真砂子

佐藤 道子

小林 矩子

小塩 偕子

栗木 黛子

芦原 滋

足立 香代子

渥美 落子

磯貝 恵三

大井 みさほ

大江 紀久子

小野 正和

鹿島 房子

河角 栄夫

川村 美智子

昭和30年卒(高校7回)の私達は、
平成9年度篁会総会担当幹事です。
21世紀へ向けて篁会の発展を祈ります。

ラ カピナ テ アミチ
La Cabina Di Amici
(Cafe & Hall)

松岡 京子
昭和30年卒 (高校7回)

〒186 東京都国立市中1-14-23
☎0425-72-1693
Hall ☎0425-73-5651
FAX 0425-73-9493

伝動機器販売・製作

株式会社 堀田本店

代表取締役 堀田 佳子子
昭和30年卒 (高校7回)

〒101 東京都千代田区岩本町2-8-14
☎03-3862-7221 (代)
FAX 03-3864-4949

寝具リース

株式会社 多賀屋

馬場 順子
昭和30年卒 (高校7回)

〒167 杉並区荻窪5-16-22
☎03-3398-2484
FAX 03-3393-3411

八十八夜摘み

静岡 山根新茶

100g 缶詰2本入り

ご予約特価 2,700円 (送料、税別)

ご予約承り中 (締切り4月末)

キタハイの川根茶

(株)山廣園本店

取締役社長 山廣 善一
専務 山廣 俊雄
昭和30年卒 (高校7回)

〒112 東京都文京区小石川4-21-1
☎03(3811)2002 FAX 03(3811)0565

産育会医院

石井佐代子
昭和30年卒 (高校7回)

〒274 千葉県船橋市松が丘1-6-2
☎0474-66-1515

バイオ理化学実験器械 販売
日京テクノス株式会社

代表取締役 新井 堅司
昭和30年卒 (高校7回)

〒113 東京都文京区本郷2-17-8
☎03-3814-2066
FAX 03-3814-2060

中国貿易専門商社

誠和貿易株式会社

代表取締役 守岡 敬祐
昭和30年卒 (高校7回)

本社
〒190 東京都立川市柴崎町3-5-21
井上ビル 6F

☎0425-27-7552 (代)
FAX 0425-27-7805

上海連絡事務所
中国・上海市行閔区七華路3333號
(萬科城市花園) 3区29號402室

☎(021) 64191998
64191758
64193138
FAX (021) 64191998

アンティーク オオタケ商店

大武 弘
昭和30年卒 (高校7回)

〒114 東京都北区王子1-13-14
☎03-3911-2405

(有)第一保険事務所

☎03-3965-1202

おりひめ手織教室

☎03-3960-0996

常盤台北口駅前

江川 庸子
昭和30年卒 (高校7回)

モスバーガー・チェーン・メンバー

有限会社 ビーアンドエイチ

代表取締役 加藤 桂子
昭和30年卒 (高校7回)

〒560 大阪府豊中市宝山町19-26
TEL/FAX 06-853-6255

モスバーガー新金岡店
(大阪府堺市)

モスバーガー京橋店
(大阪市東野田区)

モスバーガー今福店
(大阪市城東区)

専門体育教師による水泳・体育指導

個性を伸ばし、のびのびと明るい、元気な子を育てる

日進まこと幼稚園

☎331 大宮市日進2-1048(丸広百貨店南隣り) ☎048-663-0938

第二まこと幼稚園

☎331 大宮市日進3-193(日進北小東隣り) ☎048-664-1785

野尻国彦(昭和41年卒・高校18回)

毎週木曜夜7時~9時、日進北小体育館でママさんバレーボールの練習をしています。お近くの方はどうぞご参加下さい。

クスリの御相談は

株式会社 フジヤ薬局

薬剤師 小川秀康(昭和40年)

東京都墨田区墨田5-39-4 TEL(03)3611-6519

淑子の鍼灸室

室長・国立国際医療センター麻酔科勤務(月・水)

医学博士・鍼灸師 藤田淑子(昭和23年卒)

診療日: 火・木・土(限定予約)

☎113 東京都文京区本駒込3-34-3

TEL 03(3821)7075 FAX 03(3822)2986

酸洗鋼板・熱延鋼板

シャーリング・スリット・レベラーカット 加工販売
貴金属シール・サイン

泰誠産業株式会社

代表取締役 内山光政
昭和33年卒(高校10回)

台東区上野3-13-1西武ビル3階

☎03(3836)1068

サンヨー工業株式会社

代表取締役 吉岡忠俊
昭和36年卒(高校13回)

☎173 東京都板橋区双葉町45-6

☎03(3964)6090

特殊刃物・スクレパー 薄刃、厚刃、丸刃、超硬 設計 製作

ダイワ刃物工業有限公司

代表取締役 関文隆
昭和33年卒(高校10回)

☎175 東京都板橋区徳丸1-9-8

TEL 03(3550)3355

FAX 03(3550)3519

日本陰陽暦日対照表(加藤興三郎編著)旧姓・間瀬先生がなんと1500年間約50万日分の「こよみ」を本にしました。日本経済新聞に8段ぬきの記事として、とりあげられたのがきっかけとなり産経新聞や大分合同新聞等の地方新聞各紙に記事として掲載されたり、国際交流基金のニュースレターで全世界に紹介され、アメリカのハーバード大学・プリンストン大学・公立クリブランド図書館等へ納入され、只今大好評発売中です。

国文学古典の読解鑑賞・歴史上の諸事件の確証

天文・気象・農業学の検証に役立つ本

和暦と西暦(ユリウス暦・グレゴリオ暦)の比較対照が一目でわかる「日本陰陽暦日対照表」出版発売元 日本文学出版

※自費出版のご用命はぜひ当社へ

日本文学出版

☎113 東京都文京区千駄木3-22-11-623

☎03(3821)0210 FAX03(3823)0064

高校10回生・昭和33年卒 角掛 隆・昌枝(旧姓・三部)

株式会社 東京プリント印刷

取締役社長 金森 延武

〒112 東京都文京区小石川 5-31-8 ☎03-3811-3314(代) FAX-03-3811-3319

昭和28年卒・高校5回生

石州流伊佐派
半々庵八世

半月庵 磯野宗琢

(磯野うめ子・昭和13年)

〒113 文京区本駒込 6-11-22 電話 03(3946)4011

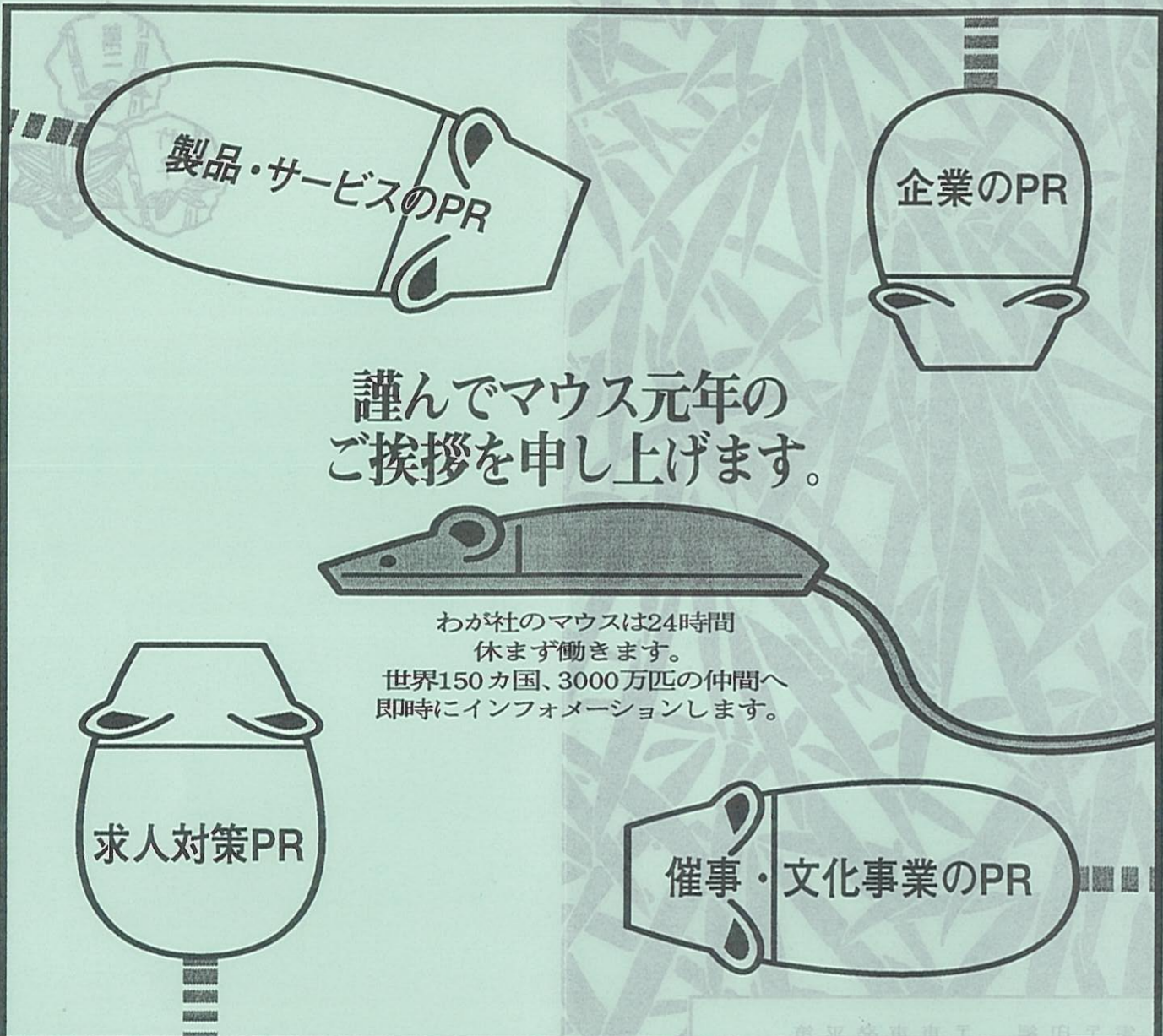
Ad' Communication.



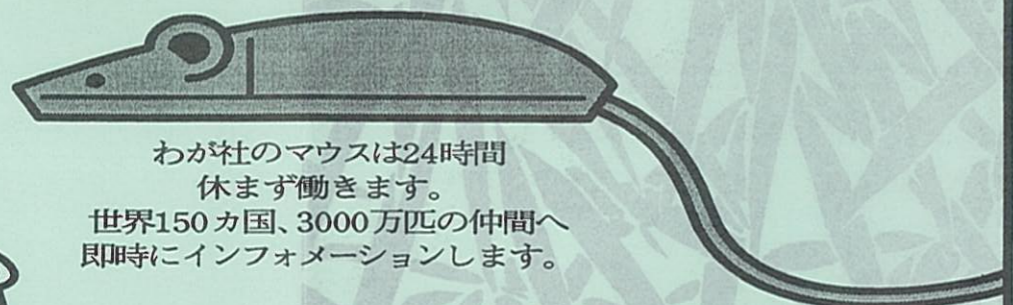
株式会社エース企画

●東京都中央区銀座3-11-11銀座参番館IIビル7F ●〒104 ●TEL(03)3546-0741 ●FAX(03)3546-1449

代表取締役 星 貢市
(昭和13年)



謹んでマウス元年の
ご挨拶を申し上げます。



わが社のマウスは24時間
休まず働きます。
世界150カ国、3000万匹の仲間へ
即時にインフォメーションします。

(株)ジャパンPRビジョンは、パブリック・リレーションズ業務の専門会社として、1970年(昭和45年)設立いたしました。以後、今日まで内外の各企業はもとより官公庁、地方自治体、教育機関、諸団体などのPR活動に独自のPR理念をもって対応し、実績をあげてまいりました。時代を理解し長期的な展望に立って、総合的PR活動を展開する(株)ジャパンPRビジョンの活動に、今後ともご注目ください。

R
株式会社 **ジャパンPRビジョン**
〒104 東京都中央区銀座5-10-6 御幸ビル5F
TEL. 03-3574-6591 FAX. 03-3574-0056
取締役社長 常木 盛雄 (昭和29年)
日本パブリック・リレーションズ協会会員 国際PR協会会員

<p>SALAT</p> <p>本社 兵庫県姫路市北条356-1 〒670 Tel.0792-84-1380 Fax.0792-24-7746 東京支社 東京都台東区台東2-27-7 〒110 日土地御徒町ビル8F フリーダイヤル0120-036381 Fax.03-3832-6389</p>	<p>對崎俊一法律事務所 弁護士 對崎 俊一 昭和40年卒(高校17回) 〒105 東京都港区虎の門1-1-11 マスタビル5F TEL 03-3506-7941 FAX 03-3506-7903</p>	<p>平河法律総合事務所 弁護士 稲見 友之 (昭和33年・高校10回生) 〒102 東京都千代田区平河町1-5-16 アキスタビル TEL 03-3261-1411 FAX 03-3263-2698</p>
<p>医療法人 社団法人 大成会 長 汐 病院 三宅 美智子 昭和21年卒(高女47回) 〒170 東京都豊島区池袋1-5-8 ☎ 03(3984)6161代表</p>	<p>糸井眼科医院 糸井 和子 (蜜田) 昭和25年卒 〒156 国立市東2-6-1 TEL 0425-72-1939</p>	<p>奄美クルマエビ(株) 専務取締役 上野 国衛 昭和33年卒(高校10回) 〒894-05 鹿児島県大島郡笠利町手花部353-1 TEL 0997(63)2406 FAX 0997(63)1351</p>
<p>聖徳大学附属中・高校 教頭 竹野 昌子 昭和28年卒(高校5回) 中野区江原町1-40-3 自宅 TEL 03-3951-8250 勤務先 TEL 047-392-8111</p>	<p>内藤建築事務所 内藤 花 昭和3年卒(高女28回) 京都市左京区北白河山ノ元町38 ☎075-781-4111</p>	<p>パロディスト マッド・アマノ (天野正之) 〒114 東京都北区上中里1-14-2 ☎ 03-3910-3051 昭和33年卒(高校10回)</p>
<p>友愛婦人会 会長 鳩山安子 昭和15年卒(高女40回) 文京区小石川4-16-13 小石川パークタワー406</p>	<p>島会計事務所 税理士 島 和也 昭和52年卒(高校29回) 〒150 東京都渋谷区神宮前6-25-8-512 TEL 03-3400-7525</p>	<p>有働 薫(高校9回生) 金賞 詩集『ウラン体操』 —新しく夢みる詩人叢書— ふらんす堂 ☎ 03-3326-9061 未来の「死」の実相を暗示し卓抜 (サンデー毎日評) 1700円</p>